

静岡県

# 静岡市

SHIZUOKA

静岡県



静岡市



## 多文化共生社会を目指して ～静岡市の取組み～

静岡市国際課

### 市の概要

二〇〇三年四月一日に静岡市と清水市が合併して誕生した「静岡市」は、静岡県の県庁所在地であり、政治、経済、情報、文化などさまざまな中枢管理機能が集積した都市です。

二〇〇五年四月一日に、全国で二四番目の政令指定都市に移行し、また、二〇〇六年三月二日には蒲原町と合併し、さらに大きな変革を遂げています。

人口は七二万六二二人（二〇〇七年七月末現在）、市域は、南は駿河湾から、北は長野県や山梨県境の三〇〇〇m級の山々が連なる南アルプスに至る二三八八・七八km<sup>2</sup>です。

静岡市の姉妹都市は、合併によりそれぞれの姉妹都市が引き継がれ、アメリカ・ストックトン市、オマハ市、シエルビービル市、フランス・カンヌ市となっています。

これまでは、これら欧米の姉妹都市を中心に文化、教育、スポーツなどの多分野において交流が行われ、親善使節団や中・高生の相互派遣など、人的な交流を主体に展開され、住民相互の異文化理解や友好親善に役立ってきました。

しかし、本市の外国人住民の登録者を国別で見ると、七〇%以上がアジア地域からの人たちであり、地理的、歴史的にアジア圏の一員であることからアジア諸国との交流は、姉妹都市との交流とともに重要なものとなってきました。アジア諸国への関心が

高まる中で、二〇〇五年四月には、ベトナム中部の都市であるフエ市と友好都市提携を結びました。

### 静岡市外国人住民 懇話会を設置

静岡市では、多文化共生社会の実現に向けて、さまざまな取組みをしています。

本市の外国人登録者数は、八三六六人（二〇〇七年七月末現在）です。外国人登録者の総人口に占める割合は、一・一六%となっています。

これらの市内に生活の本拠を有する外国人が、自らの生活に関する諸問題について検討する場を確保し、地域社会の一員とし



↑静岡市外国人住民懇話会

て市政に参加する機会を確保することにより、住民相互の理解を促進し、共に生きる地域社会を形成するため、「静岡市外国人住民懇話会」を設置しています。

二〇〇七年六月にスタートした今回の懇話会は、二十五人の外国人住民の委員によって構成されています。

二〇〇七年二月に終了した前期の懇話会では、二年間、全七回にわたり、外国人住民に関する諸問題について討議を重ねました。また、懇話会の委員で市内の施設見学を実施し、清掃工場や学校給食センターを見学するなど、市政に対する理解も深めました。さらに、川崎市、京都市、豊中市の外国籍市民懇話会委員と意見交換し、交流を深めるなど、非常に熱心に市長への提言に向けて取り組みました。提言は、外国人住民自らが市政へ積極的に参加していきたいという内容になっています。

この提言を受けて、国際課で各区の地域総務課に働きかけた結果、これまで日本人の委員しかいなかった区民懇話会に外国人の委員が加わり、葵区、駿河区、清水区にそれぞれ一人、外国人の委員が参加することになりました。区民懇話会は、区民が主体となつて、区と区民との協働により区の特性を活かした魅力ある地域づくりを進めるとともに、区制や市政に広く区民の意見を反映させることを目的としています。日本人委員の中に入った外国人委員のこれからの活躍に期待しています。

## 広報ビデオで 多文化共生を啓発

本市で生活する外国人は年々増加しており、異なる文化や習慣をお互いにどのように入力していくかが、市民にとって大きな課題となっています。このような中で、静岡市に住む人が皆、快適に暮らせる、共生意識あふれるまちをつくっていくために、市民の共生意識の啓発を目的とした広報ビデオを制作することにしました。

本年度中に完成するビデオは、市のホームページで公開するとともに、市内小中学校、公民館でも公開します。

ビデオでは、静岡市外国人住民懇話会を紹介するとともに、静岡市国際交流協会でも常時開設している多言語による生活相談を紹介しています。この生活相談は、八カ国語（英語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、フィリピン語、インドネシア語、ベトナム語）で対応しているもので、相談内容は、住宅、教育、在留資格等に関するものが多くなっています。

さらに、昨年度、延べ一〇四八人を対象に実施した国際交流員による国際理解講座や市民団体が実施している日本語教室を紹介する内容となっていま



↑広報ビデオ撮影の様子

す。

この広報ビデオの制作についても外国人住民懇話会の提言により、実現が可能となりました。「外国人に住みやすいまちは、日本人にとつても住みやすいまちである」というメッセージを発信したいと考えています。

## そのほかの取組みについて

そのほかにも二〇〇五年四月に「静岡市自治基本条例」が施行され、同条例に基づき永住外国人も住民投票の実施を請求できるようになりました。

また、市内の御幸町図書館では、外国人住民も利用できるよう、英語、中国語、ポルトガル語、韓国・朝鮮語の本や雑誌等を所蔵し、貸し出しています。



↑静岡市立御幸町図書館

## おわりに

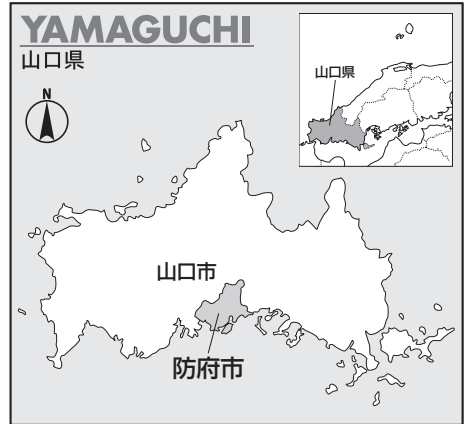
二〇〇五年二月に策定した「静岡市国際化推進計画」では、その基本理念の一つに「暮らしやすい共生のまちづくり」を掲げています。

二〇〇九年三月には富士山静岡空港が開港し、世界の人々との距離はますます近くなることも踏まえ、今後も多文化共生社会の実現を目指して静岡市の国際化を推進していきたいと考えています。

山口県

## 防府市

### 元気が織りなす大好きな ふるさと防府



防府市総務課

#### 防府市の概要

防府市は、山口県のほぼ中央部に位置し、瀬戸内海に面しており、古くから周防の国の国府として栄え、また、交通の要衝として発展した歴史のあるまちです。一九三六年八月、県内六番目の市として発足し、現在では人口約二万人、面積は一八八・五九㎢です。

市内北部は、日本三天神の一つ防府天満宮の門前町として商業が発展しました。南部は、毛利藩時代からの三白政策の一つ、製塩業が盛んでしたが、一九六〇年の製塩業の廃止を契機に塩田跡地に企業誘致を進め、今では、大規模自動車組立工場を頂点とする輸送用機械器具製造業が集積するなど、県内有数の製造品出荷額を誇る産業都市として発展を遂げています。

二一世紀を迎え、次代を担う方々に責任を持てる、元気あふれるまちづくりを実現するために、防府駅北の再開発を含む中心市街地の活性化や生活環境の整備、産業・観光の振興などに全力で取り組んでいます。

#### 姉妹都市交流

防府市は、元気が育つ人づくりのための一つの施策として、国際性豊かな人づくりを目指して、姉妹都市との交流を基軸とした国際交流事業を推進しています。

○韓国・江原道春川市

一九七四年の防府読売マラソン大会に韓

国の選手を招待したことが縁となり、翌年に防府市体育協会と春川市体育会の間で姉妹縁組の調印が行われ、同年第一回交歓陸上競技大会が開催されました。以後、現在まで継続して開催されています。一九七六年には、山口県防府市日韓親善協会が発足し、日韓親善文化交流芸術展も開催されるようになり、民間レベルの交流が盛んになりました。一九九一年には防府市と春川市との姉妹都市提携が締結されました。春川市はソウルの北東約九〇㎢に位置した湖畔の都市で、ハイテクベンチャータウンを核としてバイオ産業、マルチメディア映像産業、情報産業などの育成を目指している人口約三〇万人の自然の美しい先端産業・教育・文化都市です。韓国のテレビドラマ「冬のソナタ」の舞台になったことで脚光を浴びています。

行政の交流事業としては、①青年交流事業、②小中学生交流事業、③交歓陸上競技大会、④市議会議員交流、⑤図書館蔵書交換があります。

また、二〇〇四年には、交流三〇周年を記念して、防府市市民交流訪問団一八三人が春川市を訪問、翌年は、春川市市民応援団二〇二人が防府市を訪問し、



↑防府市小中学生交流訪問団（春川市にて）

各種交流を行いました。

青少年の交流事業は、文化の触れあいと交流を通して、次代を担う豊かな心と国際感覚を備えた青少年の育成と両市の相互理解、信頼関係の増進を目的としたものです。彼らが将来、国際感覚を備えた地域リーダーとして、幅広い市民活動を展開してくれることを望んでいます。

また、民間の交流事業も盛んに行われています。スポーツ・文化交流から始まった春川市との交流は、両市姉妹都市提携締結により青少年交流、教育交流、老人交流など各方面に広がるとともに、市民団体、学校などによる民間レベルでのさまざまな自主的交流事業にも広がっていることは大変喜ばしいことです。

○アメリカ・ミシガン州モンロー市

一九八六年に防府市に工場を持つ企業がモンロー市に進出したことが契機となり、小学校の間でペンパル交流、市民間での陶芸、美術展の開催などが行われ、交流が深



↑防府市市民交流訪問団（仁川国際空港にて）

まりました。

一九九二年に防府・モンロー国際交流市民の会が発足し、民間レベルの交流が盛んになり、一九九三年防府市とモンロー市の姉妹都市提携が締結されました。モンロー市は、ミシガン州の中でも歴史のある都市の一つで、西部劇で有名なカスター將軍の故郷でもあります。デトロイトから五〇km、五大湖の一つであるエリー湖の西側に位置する農業・工業・商業の三要素を備えた人口約二万二〇〇〇人の美しい景観の歴史あるまちです。

現在行っているモンロー市との交流は、高校生交流事業です。両市の高校生五人を毎年相互に派遣し、三週間のホームステイを通して、文化体験・交流・語学研修を行っています。この事業は防府・モンロー国際交流市民の会と共同で行っており、また、実行委員会を組織し、企画、運営を行っています。今年で二六回目を迎えました。多くの市民がホストファミリーを引き受けており、この交流事業は、市民の間ですっかり定着しています。



↑防府市派遣高校生フェアウェルパーティ（モンロー市にて）

## 防府市国際交流 団体連絡協議会

防府市では、市内にある国際交流団体二三団体で組織している「防府市国際交流団体連絡協議会」（事務局 防府市国際交流室）の主催で、市民の国際理解の推進を図るための事業を年二回実施しています。

① 国際交流フォーラム（総会含む）  
外国人講師による講演、本市の青少年派遣事業の体験発表、市内在住外国人の紹介を行います。

② 国際交流ふれあいバス  
市内で新生活を始めた外国人と市民が日帰りバスツアーで日本文化を体験します。

③ 国際交流フェスティバル  
市内在住外国人と国際交流団体が協働して、外国の文化を紹介するとともに、外国人が気軽に集える場所を提供します。【国際屋台村・活動紹介パネル展・外国人サロン・ミニ語学教室】

今後、市民の国際理解の推進を図るとともに、外国人にとっても住みやすいまちづくりを目指して、組織の活性化を図りながら、事業を展開していきたいと考えています。



↑2007年国際交流フェスティバル